

福島FUKU-Oプロジェクト手をつなごう岡山

福島×岡山

復興

学生サミット

— 福島の復興・明るい未来につなげよう —

2015.3.29(SUN) 岡山コンベンションセンター(岡山市)

東日本大震災からいくつかの歳月が過ぎました。福島では、月日が経つにつれ震災の記憶の風化や、原発事故による風評被害といった課題もあります。一方で素敵な特産品や観光地など私たちの知らない素晴らしい魅力もあります。

福島の学生の皆様と一緒に、もう一度「福島の復興」について考え、岡山からできる何かを探ってみませんか？

主催：「福島・復興【FUKU-O】プロジェクト手をつなごう岡山」実行委員会

共催：福島県・福島県教育委員会

<http://fuku-o.main.jp/>

はじめに

東日本大震災から、まもなく4年を迎えようとしています。

全国的に見ると、東北のことが報道で取り上げられることは少なくなりました。

とくに福島では、震災、津波に加えて原発事故の影響で、未だに12万人を超える方々が県内外に避難しているなど日常生活に影響を及ぼし続けています。併せて風評被害も加わり産業の復興の妨げとなっています。また、観光地として名高い福島ですが、震災前の観光客数を下回っています。このように様々な課題があって、それぞれを解決するのは時間がかかるかもしれません。

震災のすぐ後には「絆」という言葉がとてよく聞かれました。誰もが手と手を取り合い、日本中のみんなが福島のこと、東北のことを自分のことのように真剣に考えたはずですが、でも、ふと気がつくといつの間にか、つないでいたはずの手がはずれ、そして、その距離が離れていっているようにも感じます。

岡山は福島とは、鉄道距離(新幹線)で約1000km離れています。少し時間がかかるかもしれませんが、でも、我々は、あらためて福島とつながってみようと思います。

そして、ささやかではありますが、力強い気持ちで福島の復興を願いたいと思います。福島の復興、そして未来の可能性を一緒に探ってみませんか？

福島復興【FUKU-O】プロジェクト手をつなごう岡山実行委員会

Concept (コンセプト)



■「FUKU-O」【復興】

福島「FUKUSHIMA」の「FUKU」、そして岡山「OKAYAMA」の「O」をつなげて、「FUKU-O」すなわち「復興」と呼び、**両県のつながりによる福島の復興**を願います。

また、「復興」の中に「F」「U」「K」「U」「-」「O」の各文字を表現した**ロゴ**も作成し、つながりによる復興を推進していきます。主に学生など若い人が中心となって**両県がつながることによって**、風評払拭と併せて、**新たな福島ブランドの活性化**を後押しします。

■「人々のつながり」「桃などのつながりを通した風評払拭」「日本全国への波及効果」

ポスター表紙の赤色の三角形の集まりは**日本全体**を、大きな赤色の2つの三角形は「福島県」と「岡山県」を表します。三角形のつながりは、**福島と岡山の人々のつながり、そして日本全体の人々つながっていく様子**を表します。**つながっていくことで震災の記憶を風化させない**という思いが込められています。

なお、ポスターの中には「FUKU-O」の他に「つながり」を表す「CONNECT」、復興の「希望」を表す「HOPE」の3つのロゴが入っています。

またこの赤色は、**両県の代表的な果物「桃」**を表し、その濃淡は「**福島の赤い桃**」と「**岡山の白桃**」を表しています。今回のプロジェクトでは農産物(果物)のつながりを通した風評払拭を大きなテーマにしています。この三角形の集まりのように、**「日本中が福島と岡山の桃で行き渡り、福島の経済が復興しますように」という願いがこめられています。**

【プロジェクトHP】

<http://fuku-o.main.jp/>

FUKUSHIMA

OKAYAMA

福島 × 岡山☆復興【FUKU-O】学生サミット

— 福島復興・明るい未来につなげよう —

福島県参加学校・学生団体のご紹介

■福島県立福島明成高等学校

福島県福島市に位置する福島県中通り北部地区では唯一の農業高校です。「フルーツ王国福島」の中でも特に果物の生産量が多い中通り北部地区に位置する同校では、福島の代表的果物「桃」や「リンゴ」などの他、米、花などの栽培から商品開発まで多岐にわたり学習や実習に励んでいます。



「福明バウム 幸せの三輪花」

フルーツ王国福島、福島明成高校産の「米」「卵」「桃」「リンゴ」に福島産のブルーベリーも加わったバウムクーヘン。商品名は福島を明るく幸せが輪になって広がって行くようにと名付けられました。

■福島大学 災害ボランティアセンター

福島市に位置する国立大学です。仮設住宅などで支援を必要としている方々を支えることにより、福島県を元気にしたいという熱意を持つ学生たちが次のような活動を震災直後から現在まで継続して定期的実施しています。
・仮設住宅入居者への支援（足湯活動、季節イベント等）
・福島県内各地の避難所の支援（誕生日会などのイベント運営）
・子どもの遊び支援、学習支援



■福島大学 スタ☆ふくプロジェクト

震災後の福島の復興が進んでいる姿を伝えるため、2012年4月に設立されました。自分の目で実際に見てもらうことを目的に福島を感じて考えるスタディツアーを学生自身で企画し、県内3か所（いわき市、喜多方市、二本松市）で計6回開催。農業者、漁業者、観光業者などの風評被害に直面してきた現地の方々の生の声を伺い、参加者が考えることのできる機会を提供しています。



■日本大学工学部 地域連携活動研究会 R.I.S.M.

東日本大震災をきっかけに発足。地域に飛び出して工学を活かしてできることを模索しながら活動しています。原発事故のため全村民が避難を余儀なくされている葛尾村で、会うことの少なくなった子供たちが友人と再会できる場を作ろうという思いで、クリスマス会の企画・運営に関わっています。例えば、仮設住宅の周辺で行うイルミネーションを空間デザインという観点で捉え、工学を生かす場として活動しています。



■福島県立安達高等学校

二本松市に位置する普通科の公立高校です。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故を経て、平成24年度から放射線教育や再生可能エネルギー教育といったオリジナルの「復興教育」を全ての学年で展開しています。この取り組みに対して、ユネスコは同年12月、その理念を実践しているとして、同校を「ユネスコスクール」に認定しました。（福島県内では第1号でした。）
また、平成25年12月には日本国内の「ESD大賞」にも選ばれました。昨年11月に岡山で開催されたユネスコスクール世界大会にも出場し、高い評価を得られました。



■高校生団体『trees』

相双地区在住・出身の高校生（福島県立相馬高校の生徒さん等）が取材し、選んだ故郷の逸品を全国に届ける取り組み「そうまうま定期便」を実施しています。東京電力福島第一原発事故からの風評を払拭（ふっしょく）しようと若者が立ち上がりました。

■相馬スマイル応援スタンププロジェクトチーム

東日本大震災からの復興を願って相馬市の相馬、相馬東高校両校の生徒が企画した「想馬スタンプラリー」を実施しています。「地域再生を目指す被災地・相馬の姿を多くの人に知ってほしい」と事業名の「想馬」に願いを込めています。



■福島県立平商業高等学校

「フラガール」を生んだ福島県南部いわき市に位置する商業高校です。同市では、地震や津波で被害を受ける一方、原発事故の被害を受けた双葉郡の多くの方々が移住し今も仮設住宅などでの生活を余儀なくされています。そうした境遇の復興を応援しようと、フラガールにちなんでオリジナルキャラクター「フラキャラ」を活かした商品開発などに取り組んでいます。



※1月末日時点での参加予定学校、及び学生団体です。上記は、各学校・団体の取組の概要であり、サミット当日の発表内容は異なることがありますので、予めご了承ください。

福島 × 岡山☆復興【FUKU-O】学生サミット

— 福島復興・明るい未来につなげよう —

東日本大震災から4年が近づこうとしています。

震災、津波、原発事故の被害、そして、今なお多くの方々が避難していること・福島で起きたことを同じ日本人として決して忘れてはならないと思います。

こうした記憶を風化させないため、4度目の「3.11」を迎える3月に、「福島 × 岡山☆復興【FUKU-O】学生サミット」と題したイベントを岡山で開催することとなりました。これは、福島・岡山両県の学生が集まり、福島の復興について語りあうことで、福島、岡山、そして集まった学生の皆様の明るい未来につなげようというものです。

この学生サミットでは、様々な夢や目標を持っている福島の学生約40名を岡山にお招きし、震災・原発事故、福島の復興に関わるなか、福島の学生の皆様は何を思い、どのように行動してきたのかを語っていただきます。また、福島に対する熱い思いや未来についても話していただきたいと思います。

そして、福島と岡山の学生同士で意見交換を行い、今まで気づけなかった福島の魅力も教えていただき、福島から日本全国に向けてどんな発信ができるか、あるいは、岡山から福島の復興に向けてどんなことができるか、また福島の課題を、共通の地域・社会課題として捉えて、お互い学生として、地域や社会に対してどのような取り組みができるかを一緒に考えていきます。併せて、未来の目標や進路にどのようにつなげていくかなどについても探っていきます。ぜひ、皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

※以下は現段階での予定ですので、今後変更になることもあります

プログラム

【第1部】

10:00~10:10 開会
10:10~12:10 活動報告・発表（福島の学生）
12:10~12:30 活動報告・発表（岡山の学生）
（休憩）

【第2部】

13:30~15:30
・復興ワークショップ
（福島と岡山の学生による意見交換）
・「復興フラッグ」「復興ハンカチ」づくり
15:30~16:30 各グループからの発表
16:30~17:00 まとめ・閉会

※同時に、会場にポスターパネルを設置して、福島・岡山両県の学生の取組のポスター等の展示や、福島の写真展等を開催します（予定）

「復興フラッグガーランド」

事例発表、ワークショップを通して、そのグループで語りあった内容や提言のまとめや、学生の思いや未来への夢や絵手紙などをまとめた「復興フラッグ」、または「復興ハンカチ」を皆さんと一緒に作ります！この復興フラッグ、復興ハンカチを、フラッグガーランドにして、一定期間、岡山の某所で一斉に掲げ、このサミットでの学生の思いや提言を、岡山県民、そして全国に発信するとともに、岡山県内における福島の復興を願うシンボルの一つとします！

日程・会場

【日程】

平成27年3月29日（日）10:00~17:00

【会場】

岡山コンベンションセンター3F
コンベンションホール
（岡山市 岡山駅西口に隣接）

【参加費】無料



※同時開催で、野外イベントとして、福島・復興【FUKU-O】春フェス in 岡山を同じ岡山駅前で開催します。
（3月28日・29日の2日間開催予定）

参加方法

【参加対象・募集人数】

■福島県
高校生・大学生 計約40名
■岡山県
中高生・大学生・社会人

【参加申込方法】

事前の申し込みが必要です。定員に達し次第締め切らせていただきますので、下記あて電話、若しくは、氏名、連絡先をご記入の上、FAX、メールにてお早めにお申込みください。

【申込先・問い合わせ先】

福島復興【FUKU-O】プロジェクト手をつなごう岡山実行委員会事務局
福島県庁商工労働部商工総務課
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16（西庁舎10階）
TEL: 024-521-7270
FAX: 024-521-7930
メール: syokosomu@pref.fukushima.lg.jp

「福島・復興【FUKU-O】プロジェクト」～手をつなごう岡山～ 概要・取組

2014年度夏、東日本大震災から3年半が経過する中で、岡山県内の高校・大学の学生、学校関係者、青年会議所、岡山県職員（福島県への派遣職員）など有志で、福島の復興のために何かできないかと語り合った結果、「福島・復興【FUKU-O】プロジェクト～手をつなごう岡山～」と題し、あらためて福島のことを学び、そして、岡山県内外に福島の魅力などを情報発信し、福島の復興を応援していく取組をはじめることとしました。

取組の第一歩として、高校や大学での学園祭・文化祭で、福島の復興の様子や、観光地・特産品など岡山ではあまり知られていない福島の魅力の発信などを実施しています。以下はその時の様子や、参加した学生の皆様の声です。
詳しくはプロジェクトホームページ (<http://fuku-o.main.jp/>) にも掲載しています。

■玉野市立玉野商業高等学校の皆様（平成26年10月8日・9日）

岡山県の玉野市立玉野商業高等学校の報道部12名の皆様が10月8日・9日と学校で開催された文化祭（唯心祭）で、「福島の今」と題して、福島の現地の復興の様子の写真などを展示・発表していただきました。



3年生（男性）
福島の現在の様子を見て感じたことは、あれから3年経っているのに、いまだに復興が進んでおらず、野原が続いているところもあり、いったい何年経ったら復興できるのかと思いました。でも、少しずつでも着々と進んでいることもわかりました。福島県はフルーツ王国とも言われています。実際に福島県産の桃を食べてみたところ、桃自体は初めて食べましたが、すごく甘みがあって美味しかったです。実際、僕はりんごとみかんが好きなので、福島産の他のフルーツも食べてみたいと思うようになりました。
今後取り組んでみたいことは「安心・安全福島県」をPRすることです。なぜなら今でも福島県は危ないと思っている人たちに安心で安全ですよということを伝えていけば、他県の人たちも良い印象を持ってくれると思うからです。
復興には時間がかかりますが、あきらめなければきっと良いことがあると思います。それまでがんばって下さい。私たちも応援します。

1年生（女性）
私は福島のMAPを作りました。ネットで福島のことを調べていると死者数の多さにびっくりしました。岡山に住んでいる私は福島のことをあまり知らなかったのですが、桃が有名なことや漁業が盛んなことがわかりました。福島県は漁業が盛んだっただけで津波がきてとても打撃を受けたと思いました。ネットで復興してきている記事など見てすごいなあと思いました。でもまだ復興できていないところもあるので、少しでも早く復興してほしいと思います。報道部で何か力になれることを考えて応援していきたいです。

■岡山学院大学の皆様（平成26年10月25日・26日）

- ・福島県いわき市の福島県立平商業高等学校の学生さんが作った復興支援グッズを販売しました。（いわき市のフラガールをモチーフにした「フラキャラ」グッズなど）
- ・福島県、平商業高校の皆様への応援メッセージなども募集しました。



■岡山理科大学の皆様（平成26年11月22日・23日）

福島の復興と、福島の食の安全・安心をPRするためパネル展示と、福島県産農産物の販売を行いました。パネル展示で今の福島の農産物や漁業の状況をお伝えするとともに、販売として「天のつぶ」（福島の復興を象徴するブランド米）の新米、出荷したばかりの「サンふじ」など、旬の食材を提供することで、福島の産物の風評被害の払拭の一助としました。また、この日は併せて、岡山理科大学の学生の皆様が、東北のさばやさんまの缶詰を販売するとともに、これまでの復興支援に向けた取組の紹介も行いました。



学生代表の方の感想
仙台へのボランティアは経験があるにも関わらず、今回、「福島・復興【FUKU-O】プロジェクト」に関わって、全く福島の現状を把握していなくて恥ずかしかったです。多くの方は喜んで買ってくれ、遠く離れた岡山でも問題意識を持っている方はいっぱいいることを確認しました。一方、数人の方は、放射線量が・・・とのことでクリームや文句を言われてきました。検査合格のシールがあるにも関わらず、です。自己解釈の勝手な理論を振りかざしていました。本当に風評被害はおそろしいです。実際、福島の方は大変な思いをされていることなのでしょう。この経験を基に、我々にできることは何なのか？じっくり考えてみて、行動に移していきます。



■岡山県立岡山南高等学校の皆様（平成26年12月13日）

- ・卒業制作展で、福島県立小高商業高等学校の生徒さんが開発したかぼちゃのタルトやまんじゅうを販売し、併せて福島県立平商業高等学校の学生さんが作ったラムネを販売しました。
- ・商品は大人気で、すぐに完売し大変好評でした！



- ★生徒やお客さんの声・感想です
- ・「昔ながらの味がするラムネで、とてもおいしかった。今度は暑いときにギンギンに冷やして飲みたい。」
- ・「色々なことを福島の高校生も考えているので参考にしたい。」
- ・「キャラクターなどを作り、とても楽しそうな学校です。」
- ・「おいしい！ 女子は絶対買う！」
- ・「甘いかぼちゃの味が口の中に広がりました。福島のかぼちゃはおいしかった。」



■「児島で新成人を祝う会」の様子（平成27年1月11日）

倉敷市児島で開催された「児島で新成人を祝う会」で、新成人の皆さんや会場の子供たちが中心となって、福島に向けて、笑顔で記念撮影しました。



福島県の今 福島 × 岡山・復興学生サミットのテーマ例

東日本大震災から4年を迎える福島県の今の状況の一部をまとめました。様々な課題がある一方で、前向きな未来に向けた取組みもあります。復興学生サミットを通して福島県の復興のために岡山からできる何か、そして岡山の地域・社会にも共通する課題として考え行動するきっかけとしていただけたらと思います。

福島の復興に向けて

福島の復興への取組から学ぶ — 学生が関わるまちづくり・地域貢献 —

福島の復興を願うために福島と岡山の学生が集い、次のことを考え、提言します！

- ① 学生だからこそできる福島の復興に向けた両県の取組
- ② 遠く離れていてもできる福島の復興支援
- ③ 東日本大震災・原発事故の記憶を風化させないためにできること

福島の学生の皆様が、福島の復興を目的に、まちづくりや地域貢献活動に取り組んでいます。そうした事例から、福島の課題を、岡山にも共通する地域・社会課題として、そして「自分ごと」として捉えて、お互い学生として、地域や社会に対してどのような取り組みができるかを一緒に考えていきます。また、岡山県の学生による取組も紹介し、福島県の各校の参考にさせていただきます。併せて、未来の目標や進路にどのようにつなげていくかなどについても探っていきます。



岡山学院大学での復興支援グッズ（福島の高校生の開発商品）の販売（平成26年10月）

魅力あふれる福島の「食」・「観光地」

— 風評被害の払拭に向けて —



福島の桃（あかつき）

○なんと、福島・岡山両県は、実はフルーツ王国同士なのです！
桃（生産量：平成25年度 福島全国第2位、岡山全国第6位）をはじめとして、福島では、リンゴ・ナシ・柿など、岡山では、マスカット・ピオーネなどの生産が盛んです。（福島県のほうが岡山県より桃の生産量は多いのです！）
また、米の生産が盛んで、15年かけて開発されたオリジナルの品種「天のつづ」は、復興のシンボルとして、近年、作付面積を拡大しています。
東日本大震災、そして東京電力福島第一原発の事故により、福島の農産物の生産量が一時期減少しましたが、今はかなりのレベルまで回復しました。ところが、流通価格が下がったままとなっています。桃の場合で、全国平均の約7割です。これは、原発事故による放射線に対する風評被害が大きな原因と考えられています。



岡山の桃（白桃）

○安全・安心に向けた取組
福島の果物は、食品衛生法で定める「100ベクレル」を基準に、モニタリング検査を行っています。平成25年度、そして26年度は、12月現在、この基準を上回る果物は検出されていません。野菜も同様です。こうした安全・安心な取り組み・その結果が全国的に知られていないことなどもあって、福島の農林水産業は、厳しい状況が続いています。

○福島は観光の魅力がいっぱい！
福島には風光明媚な観光地がたくさんあり、年間約6000万人もの人が訪れます。震災直後に落ち込んだ観光客数は、徐々に回復してきましたが、まだ震災前の状態には戻っていません。観光面でも風評被害が根深く残っています。特に、県外から本県を訪れる教育旅行生（修学旅行など）の人数は、震災前の5割に達しません。

→【福島 × 岡山復興学生サミットのテーマ例】
・福島県の風評被害について、岡山からどんな取組ができるか、また日本全体としてできる対策を考えます。（例：福島と岡山のフルーツを使ったコラボ商品開発などによる両県の果物のPR）
・放射線物質への正しい理解を、岡山でどのように進めていくかを考えます。
・福島の魅力再発見 — 福島の魅力と復興を知る —
福島の学生の皆様に、福島の魅力を伝えていただきながら、岡山の学生と一緒に、教育旅行などを通して、福島の観光地、そして復興を学ぶことのできる観光ルートなどを考えていきます。

人口減少～避難の長期化・高齢化の加速・若者の流出～ — 地域コミュニティの再生・活性化に向けて —

○人口減少・高齢化の加速・若者の流出

福島県では東日本大震災・原発事故により、多くの方が県内外に避難を余儀なくされました。震災から約4年となった今でも約12万人を超える方々が避難生活を続けています。一時的な住まいのはずの『仮設住宅』に住んでいる方々が、今も約2万5千名もいて、高齢者、特に75歳を超える後期高齢者の占める割合が多くなってきています。

○高齢者の健康問題・介護・医療問題（人材不足など）

避難している高齢者の中には、慣れない環境のまま長期間にわたって生活していることから孤独感を感じる人も多くなっています。また持病が悪化したり、ストレスがたまることで、病気がちになったりする方もいます。認知症などを発症する方も多くいます。一方で、介護や看護を担う若い人が流出し、高齢者の心身面での体調をケアする人が足りなくなっています。

このような問題は、これから人口減少する、若しくは既に人口が減少している日本の各地域（岡山県も含めて）において、無視できない、他人事ではないテーマです。

※福島県では震災後に、避難生活等が影響して体調を崩し亡くなった方々を「震災関連死」として認定しています。特に福島県では、震災で直接亡くなった方々「直接死」よりも、この震災後に亡くなった方々「震災関連死」のほうが多くなっています。

→【福島 × 岡山復興学生サミットのテーマ例】

・原発事故等によって、福島県では多くの方が県内外に避難しています。福島県民の人口減少の課題・及びその影響を検証します。併せて、将来、岡山や日本の各地域でも起こりうる人口減少について考察や、地域コミュニティの再生に向けて、どんな方策が考えられるかの検討・提案を行っていきます。（福島での実情を知ることで、岡山や日本の各地域における高齢化や若者流出に対する対策を考察し、提言します）
・避難生活が長引く中で、お年寄りの心に寄り添い、癒すことのできるような何かを考えていきます。

→福島市内の仮設住宅での、学生と高齢者の交流（平成26年11月）



原発事故とエネルギー問題

— 持続可能なエネルギーと環境に配慮した社会を目指して —

・原発事故の発生後、福島では再生可能エネルギーの活用に積極的に取り組んでいます。日本の最先端の技術が結集された『浮体式洋上風力発電』をはじめ、太陽光、バイオマスなど様々な自然エネルギーの導入に取り組んでいます。岡山県も天候が温暖であることから、太陽光発電を中心に再生可能エネルギーに積極的に取り組んでいます。

→【福島 × 岡山復興学生サミットのテーマ例】

・福島原発事故の課題から、日本全体での原発やエネルギー問題を考えるとともに、エネルギー供給面（日本・岡山でのエネルギー自給率）や環境問題も考察し、再生可能エネルギーの活用を検討します。
・原発事故後、再生可能エネルギーの活用へ先進的に取り組む福島の例から、岡山や日本の各地域での更なる自然エネルギー活用の可能性を検討します。



東日本大震災・東京電力福島第一原発の事故を通して、地域防災や防災教育について学生ができることから考えていきます。

学生ができる身近な防災

福島県の復興に向けた弊社の主な取組について



本業での取組

- ・震災直後は保険金の迅速なお支払いに注力(全国から応援要員を順次被災地に派遣し延べ約1万人体制で対応)
- ・福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会をご契約者とする除染作業にかかる賠償責任補償制度を発足
- ・がれき撤去作業等に係る産業廃棄物事業者への業務災害補償(政府労災の上乗せ)をご提供
- ・被災地建設事業者向け『復興事業支援パッケージ保険』をリリース(2013年6月)

福島県の早期復興へ

福島県

施策でのご支援

- ・福島県商工労働部産業創出課(福島県立医科大学ふくしま医療-産業リエゾン推進室)の依頼に基づき、医療機器関連集積プロジェクトにおいて、国内外PL問題に係るセミナーを開催(2012年9月14日)
- ・小学生を対象とした環境や防災について学ぶ「みどりの授業」「ぼうさい授業」を福島市内で開催(2014年12月21日)
- ・福島商工会議所主催セミナー「企業のためのメンタルヘルスセミナー」へ講師を派遣(2015年2月9日)

直接的なご支援

<派遣>

- ・福島県庁 企画調整部 復興・総合計画課へ社員派遣(2011年10月～)

<物産展の開催や県産品の販売>

- ・東京・大阪にて福島県産野菜販売(計3回 2011年5、7、10月)及び企業マルシェを2回開催(2012年11月・2014年7月)
- ・弊社社員食堂にて福島県ご当地メニューを提供、売上の一部を寄付(2012年10、11月 約1,500食販売) 2014年度も月1回のペースで継続中
- ・当社独自の『福島県復興支援企画通販カタログ』を作成し、県産品を全国の社員に販売(2011年度・2012年度)

<ボランティア活動・支援旅行>

- ・東京海上日動ビッグブルー(実業団チーム)による市内女子中学生向けバスケットボールクリニックの開催(2012年12月1日)
- ・アメフト部(72名)ボランティア活動で来県「いわき市のNPO法人運営:オーガニックコットン畑での除草や田植え」(2014年6月28～29日)
- ・公務開発部(40名)ボランティア活動で来県「いわき市で防災林の整備」(2014年11月)
- ・自動車営業開発部、福島自動車営業部(26名)ボランティア活動で来県「いわき市で学校周辺の草刈り、整備」(2014年11月)
- ・スキー・スノーボード部、福島支店メンバー総勢70名が合同合宿を実施予定「グランデコスノーリゾート、東山温泉宿泊」(2015年2月28日～3月1日)

<社員・代理店向け広報誌での情報発信>

- ・震災から4年が経過した被災3県の現状を特集。震災からの学びや復興の状況等を現地代理店へインタビュー(2015年3月末 約23,000部発行予定)

東京海上日動火災保険(株)ふくしま復興支援マルシェ2014の様子



【チラシ配り】

福島支店メンバーや県ハッピー隊と連携し、3,000部のチラシを配りました。



【会場（新館2階展示場）】

入口にのぼりを設置し、会場につながる通路にはチラシを掲載。



【コープふくしま】

ふくしまのおいしい農産物や喜多方ラーメン、なみえ焼きそばなどの加工品を販売。



【伊達市観光物産協会】

桃やジュースを販売。PRとしてミスピーチも参加。



【開始時間前】

当日外出する社員などは、開始時間前に来場し、買い物をしました。



【福島支店メンバーの呼び込み】

福島支店メンバーの呼び込みもあり、多くの社員が桃・日本酒・銘菓など複数の商品を購入しました。



【昼時間】

桃や銘菓の試食もあり、お昼時間には多くの社員が来場し賑わいました。



【北沢副社長と小泉政務官】

北沢副社長と小泉政務官は、桃の試食をされ、社員食堂では「なみえ焼きそば」を召し上がりました。



【永野社長と小泉政務官】

永野社長は小泉政務官と面談したほか、福島民報、民友社のインタビューに応じています。